

8

2005年

組合広報

NO. 464

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	三多摩全域にも上下水道料金減額措置を	広報副委員長 半田 實	1
役員会委員会	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		2
	顧問・相談役会並びに		3
	大村理事長の都中央会・全鍍連両会長就任祝賀会		
	技能検定実技試験実施		8
あなたの予定表	9月の環研・協組集荷日程ほか		9
	平成 17・18 年度役員・委員会・顧問相談役構成		10
	正副理事長・専務理事		12
	常任理事・支部長・理事・監事		13
顔写真集	広報委員会、環境委員会、技能教育委員会、HP 特別委員会		17
	名誉顧問・顧問・相談役		21
	部会長、青年部会長		24
	工業組合・協同組合事務局職員		25
	表技協めつき部会「3 価クロメートの現場での実施状況」		26
	(株)梅田鍍金工業所・永田一雄氏講演		
	亜鉛めつき部会講習会開催のお知らせ		29
	訓練校 9 月授業案内		30
	第 39 回上級表面処理技術講座受講生募集		31
	十日会 7 月例会		32
	東京都職業能力開発協会の研修案内、日本表面化学(株)		
ピックアップ	5 マイクロメートル微粒子にめつきほか		34
支部通信	城東支部、城北支部、足立支部、城西青年部会		39
	第 1 回ものづくり日本大賞に清川メッキ工業(株)が特別賞受賞		40

三多摩全域にも 上下水道料金減額措置を

広報副委員長 半田 實



私が広報副委員長を仰せつかりまして今期で4期目となります。

私が広報副委員長を仰せつかった最初の委員長 木村秀利氏とその間6年間大変御世話になりましてありがとうございました。

今期は、姫野担当副理事長、神谷委員長、木下副委員長、各支部委員と共に活動をして行くことになりました。一部の支部委員が入れ替わり、残りのメンバーは今まで通りとなります。

広報委員会は、隔月の会合で広報誌のレイアウト、校正刷り、翌月、翌々月号の編集方針の検討を行っています。

さて、今年もめっき業界に対する上下水道料金の減額措置が実施されました。都内23区全域で減額措置が行われていますが、三多摩地域の一部市では、この対象になっておらず、同じ都内でありながら少し不公平ではないかと私共西部支部の理事会で時々話題になります。三多摩地域全域が都内23区と同じにならないものかと考える次第であります。

また、このところ、景気回復の兆しがあるとするものの、原材料価格の上昇が受注単価に転嫁できず、採算面では大変厳しい状況が続いております。

特に亜鉛めっきの場合、環境汚染を引き起こすことが指摘されて、6価クロメートから3価の化成処理への代替が活発化し、年内にはほとんどの製品が3価の化成処理に切り替わる予定となっています。

しかし、6価クロメート処理剤に比べ3価の化成処理薬剤は、2種類以上使用し、建浴の濃度は10倍となり、非常に割高となります。ある業界紙の講演時の話によると、処理にかかる価格が1.5倍高くなると記してありましたが、処理時間を考慮するともう少し割高になると考えます。

今後、6価クロメート以外で注目される環境問題としては、ハウ酸、フッ素に対しての処理だと思っています。ハウ酸、フッ素は、まだ暫定期間がありますが、既に1年経過しており、今後処理技術も重要となります。ハウ酸、フッ素の問題は毎回のように入稿誌に掲載されておりますが、技術開発等の推移を注視していきたいと思っています。

今後とも広報委員会に一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

大村理事長日誌



7月

- 1日(金)全鍍連事務局
- 4日(月)全鍍連正副会長会議・常任理事会
- 5日(火)都中央会
- 6日(水)全鍍連環境対策委員会

東京組合正副理事長会・理事会

- 7日(木)全鍍連広報委員会
- 8日(金)経産省保坂副大臣へ要望
- 12日(火)三宅都議へ要望
全鍍連国際委員会
- 13日(水)健保組合打合せ
全鍍連近代化推進委員会
- 14日(木)健保組合理事会・組合会
- 15日(金)組合事務局
- 16日(土)竹内克弘氏黄綬褒章受章を祝う会
- 19日(火)都中央会
環境プロジェクト
- 20日(水)都中央会関東甲信越静ブロック会
長会議
- 27日(水)顧問・相談役会、大村理事長の都中
央会・全鍍連両会長就任祝賀会
- 28日(木)都中央会、東京都の労働問題懇談
会

～組合・関連団体行事予定～

- 9月6日(火)監事会
- 9月7日(水)正副理事長会・理事会
- 9月8日(木)環境委員会
- 9月15日(木)全国中央会全国大会
- 9月16日(金)全鍍連北海道東北ブロック会議
- 10月4日(火)広報委員会
- 10月5日(水)正副理事長会
- 10月6日(木)環境委員会
- 10月12日(水)技能教育委員会
全鍍連近代化三役会・広報委員会
- 10月18日(火)訓練校工場見学
- 10月20日(木)全鍍連関東甲信越静ブロッ
ク会議・技術三役会・コンクール審査委
員会

- 10月26日(水)全鍍連総務委員会
- 10月27日(木)監事会
- 10月28日(金)全鍍連中国四国九州ブロッ
ク、東海北陸ブロック、近畿ブロック会
議
- 11月2日(水)正副理事長会、理事会
- 11月17日(木)全鍍連交際三役会
- 11月24日(木)全鍍連常任理事会・理事会・
第43回全国大会
- 12月1日(木)正副理事長会
- 12月6日(火)広報委員会
- 12月7日(水)全鍍連環境対策委員会
- 12月8日(木)環境委員会
- 1月12日(木)正副理事長会・賀詞交歓会

顧問・相談役会並びに 大村理事長の都中央会・全鍍連両会長就任祝賀会

東京都鍍金工業組合並びに東京鍍金公害防止協同組合は7月27日(水)午後5時から港区芝公園の東京プリンスホテルパークタワー地下2階「さくら」で“顧問・相談役会”を、引続き発起人(発起人代表: 姫野正弘副理事長始め7名)による、大村功作理事長の東京都中小企業団体中央会、全国鍍金工業組合連合会の両会長就任祝賀会を開催した。

大村理事長は東鍍工組第39回総代会で再選され、新執行部体制のもとで平成17年度事業をスタートした。また、5月12日開催の東京都中小企業団体中央会通常総会において会長に選任され、さらに5月30日開催の全国鍍金工業組合連合会通常総会において会長に選任された。工業組合から都中央会会長の就任は初めてのことであり、全鍍連会長についても12年ぶりで、まことに画期的な、名誉あることであり、理事・監事各位並びに顧問・相談役各位の有志により、大村理事長の両会長就任祝賀会を開催することとなった。

はじめに顧問・相談役会が、小澤栄男総財務委員長長の司会により、業界関係物故者へ黙祷を捧げたあと、姫野正弘副理事長は「大変暑い中を東京プリンスホテルまでお越しいただき感謝申し上げます。例年、顧問相談役会は湯島の東京ガーデンパレスで行っているが、今年は色々な事情があって新しく東京プリンスを使うことになった。日頃は組合事業に対して顧問相談役のみなさんから大変なご指導を頂き心より感謝申し上げます。去る5月



の総代会において平成17年度組合執行部が、引続き厳しい業界の状況の中で大村理事長がやり残したことがあり、同じメンバーでやっていこうと正副理事長留任とさせて頂いた。業界を取り巻く環境は益々厳しくなっている。とりわけ環境問題は避けて通れないわけで大村理事長のリーダーシップのもと、微力ではあるが、執行部一同頑張っていく所存である。今後とも顧問相談役のご指導をお願い申し上げます」と開会の挨拶をした。

大村理事長は、「大変暑いなかをご出席頂き感謝申し上げます。まだ総代会が終わったばかりで、あまりお話しすることは



ないが、今年は第一に現在の 12 支部の中で組合員数の少ない支部があるので、支部の統合を今期中に考えていきたい。支部組織がバランスのよい形になればと思っている。もう一つ土壤汚染問題である。どういう方向で取り組んでいけばよいのか、過日環境プロジェクトで、土壤汚染対策法が正しいのかどうかを理解した上で対応を考えていきたいと 29 日に組合顧問の中本弁護士を招いて、法律が正しいのかどうか弁護士の意見を聞くことにした。我々としては過去にさかのぼって違反を取締るのが正しいのか非常に疑問を感じており、そういうことを踏まえて勉強させて頂いた上で、土壤汚染対策法を見直し、それによって東京組合としては東京都へ色々な要望をしていきたい。国に対しては全鍍連を通じて要望して行きたいと考えている。勿論他の組合事業も従来通り進めてくが、特にこの 2 点をメインテーマとして取り組んでいきたいと考えており、みなさまのご意見を聞かせて頂きたい」と挨拶した。

組合事業活動報告は総代会後間もないこともあり、配布資料に目を通して頂いた後、顧問・相談役のご意見を伺い、組合活動への質疑応答激励等の言葉を頂いた。

最後に顧問・相談役を代表して海老名平吉顧問が「時間の制約もあり、言い尽くせないことがあると思う。特に土壤汚染問題に関しては、日刊紙で新しい技術開発が発表され、処理業者が競争して良い方法が安くなるだろうと期待していたが、現状はそう簡単ではないようだ。今後とも顧問相談役会が本音でもって話し合える会として頂きたい」と挨拶した。

由田猛副理事長は「今回は大村理事長のお祝いを兼ねていることで時間の制約もあったが、貴重なご意見を頂き感謝申し上げます。お互いが本音の意見で前向きな話し合いが出来るようにしていきたい。これを機に、さらに組合発展のためご指導をお願い申し上げます」と閉会の挨拶をして、顧問相談役会を終了した。

都中央会・全鍍連両会長就任祝賀会

引続き6時より、篠根健一総財務副委員長の司会により、大村理事長の都中央会・全鍍連両会長就任祝賀会を行った。はじめに発起人を代表して、姫野正弘副理事長は「顧問相談役会に引続いて大村理事長の都中央会会長、全鍍連会長就任祝賀会を開催する。組合にとっては120年の歴史の中で初めて大変名誉ある都中央会会長の要職を受けられた。また、我々の上部団体である全鍍連会長に東京組合から12年ぶりに会長が選出された。本日は暑い中を、若い理事以上の皆様のご参集いただき感謝申し上げます。大村理事長が重責を担われるが、都中央会会長、全鍍連会長として言葉の重みを肝に銘じながら、各団体のリーダーとしてご活躍を頂きたい」と開会の挨拶した。

顧問相談役を代表して、海老名平吉顧問は「大村理事長が3団体の代表という重責を担うことになった。いま姫野副理

事長から話があったように、組合役員全員の参加を頂いて盛大に祝賀会が催されたことに対して心よりお礼申し上げる。全鍍連会長就任は当然のことであるが、都中央会は会員団体2100、その会長に就任されたことは、大村さんは勿論のこと我々組合員としても大変光栄なことであり、心よりお喜び申し上げます。我々組合は環境問題ははじめ色々活動しなければならない団体となっており、それが他団体と比べて優秀という評価を頂いたものと思う。今年に入って、全鍍連会長が内定したところに都中央会の話が出て、大村理事長は受けるべきか逃げるべきか、大分迷っていたようである。私が2月2日他の用事で正副理事長会に呼ばれてお会いした後、大村さんが副理事長のみなさんと相談されたと思うが、副理事長から我々が全面的に協力するから受けなさいという力強い言葉を頂いて踏ん切りがついたと伺っている。本日、副理事長をはじめ、こうして役員全員が出席してお祝いして頂き、大村さんも安心してこの大



役をお引き受けすることが出来たものと思う。今後は健康に十分に留意されて活躍されるようお願い申し上げます」と挨拶した。

大村理事長は「みなさんは身内の方々ばかりで、東京組合以外の方では都中央会専務、全鍍連専務、健保、基金の4名しかいない。理事会を開いているような雰囲気だが、このような会を催して頂き、発起人をはじめ理事のみなさんに心より感謝申し上げます。両団体の会長を前後してお引き受けすることになり、大変な重責を担うことに身の引き締まる思いである。そして会長をお引き受けして2ヶ月が経過し、覚悟はしていたが、大変忙しい日々を過ごした。いま海老名顧問から健康に留意するように言われたが、当組合の総代会前日にぎっくり腰をやり、その後風邪をひいて着任早々にご迷惑をおかけしたが、何とか良くなり、本日は万全の体調でのぞんでいる。実は昨年暮れ、東京組合の理事長を引き受けるかどうか悩んだが、3期6年が終わり、もう1期だけ頑張てやろうとお引き受けした。その後続けて、全鍍連と都中央会の会長ということで、果たして時間の調整が出来るのか自信がなかったが、幸いにも副理事長さんはじめ海老名顧問さん、関係各位のみなさんから力強い言葉を頂いた。東京組合のことは心配するな、我々に任せて都中央会、全鍍連を引き受けてやってほしいという言葉を受けてお引き受けした。東京組合は組合員が支える団体であるが、都中央会、全鍍連は各組合が組合員となっている。全鍍連のことは分かっているが、都中央会には分からない部分があり、いま一生懸命勉強しているのが本音である。都中央会は大きな組織で、会員は約2100組合、1団体1名の代表

ということで、まず顔と名前、どんな団体か分からないので1から教えてもらっている。前会長は21年の長きにわたって会長をつとめられたが、今期体調を崩されて任期半ばで退任され、5月12日の総会において私が会長に指名を頂いた。残任期間の1年ということでお引き受けしたが、都中央会正副会長の中で私が一番年下であり、すぐにはやめられないと思っている。都中央会、全鍍連の会長として何を行うかが大きな課題だが、9月15日に全国中央会の全国大会が北海道で行われるので、我々めっき業界の意見として土壌汚染問題を提議させて頂いた。全中の議題として取り上げられるかどうか分からないが、取り上げられると、大きな組織であり、相当の影響があると思う。何が出来て何が出来ないかはこれからの課題で、力不足であるが、一步一步出来ることからやっていきたい。全鍍連についてもみなさんから色々な要望があろうかと思うが、みなさんの要望を聞かせて頂いて反映できるよう努力していく所存である。みなさんのご支援ご協力をお願い申し上げます」と謝辞を述べた。

来賓として東京都中小企業団体中央会・堀内忠専務理事は、都中央会組織について、「このたびは大村理事長に私ども中央会の第5代会長に就任を頂き感謝している。ただいま大村会長から紹介を頂いたが、私ども中央会は各都道府県に1つずつある。私どもの上部団体に全国中央会がある。その根拠法はみなさんと同じ所謂組合法である。都中央会は昭和31年に設立し、来年50周年を迎える。現在2100の会員組合である。業種では製造業、建設業、輸送業、最近はサービス業、介護関係の組合も多くなっている。無い業種がないくらい多岐にわっており、

構成員は概ね 32 万企業である。中央会の仕事としては、組合の設立、現在年間 50 組合が新しく誕生している。場合によっては解散もあるが、組合専門の支援機関となっている。同時に国を通して構成員の育成振興を図る事業を行っている。同様の組織に商工会議所、商工会があり、中央会を含めて、商工 3 団体と言われている。商工会議所、商工会は市町単位でそれぞれの商工業者により構成され、個別の商工業者に対する相談機関であるが、中央会は都県単位で中小企業が組織化された組合の相談機関となっている。大村理事長はその会長に就任を頂いた。会長の交代は 21 年ぶりである。私ども事務局も気持ちを新たに大村会長の体制のもとに事業展開をしている。また、中央会は東京都、国との関係も深く、東京都、国の関係機関の役員、委員等の就任要請があり、現在、東京都労働委員会に 3 名の推薦枠があり、大村会長にも委員として激務をこなして頂いている。如何せん東京都の委員は代理がきかないので、時間的な負担もあるが出来るだけ負担をかけないよう努力しているつもりである。ともあれ、工業組合並びに協同組合の発展を祈念する」と挨拶した。

全国鍍金工業組合連合会・布袋屋皓造専務理事は、「会長職は精神的にも肉体的にも激務であると言われており、会長には健康に留意して頂きこの 2 年間をつとめて頂きたい。私どもめっき業界は日本の機械産業、輸出産業、もの作り産業の基本であると各方面からお褒めを頂いている割には、年々環境が厳しくなっているのが現実である。ご承知の通り、ほう素ふっ素等の暫定基準、これから排水基準が決まる亜鉛について、みなさんから測定結果を頂いているが、残念なこと

にデータ数が少ないことがある。正しいデータをもって暫定基準の延長を頂きたいと考えているが、組合員企業 1,900 社のうちデータは 3 分の 1 の 600 社くらいしかない。亜鉛、ほう素ふっ素にしても相当数の企業が使われていると思うが、データが少ないとパーセントで処理されるので、切り下げになった時に抵抗出来ない弱さがある。やはり数が多ければ多いほど色々な折衝の上で役立つことがあり、ぜひご協力をお願いしたい。東京組合は全鍍連の 4 分の 1 を占める大きな組合であり、東京組合のみなさんのお力添えがなければ問題も解決できないのでご協力をお願いしたい」と挨拶した。

由田猛副理事長は「東京組合を母体にしてリーダーが出たのは、めっき業界の長い歴史の中で初めてであろう。我々も大変誇りに思うし、支えていく責任がある。これからめっき業界が益々発展するよう大村理事長にリーダーシップを発揮して頂き、我々も一緒になって頑張って参りたい」と述べて、乾杯音頭をとった。

和やかな歓談が続いて、最後に八幡順一副理事長の音頭で万歳三唱、川上洋一副理事長の閉会の辞をもって終了した。

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

芹川タケノ様（城東支部・(有)芹川鍍金工業所芹川常治社長のご母堂）7 月 29 日死去、88 歳。告別式は 8 月 2 日午前 10 時から江戸川区西小岩の慈光殿で行われた。喪主は常治氏。

鈴木保美様（中央支部・鈴木(株)鈴木利夫社長のご令室）7 月 29 日死去、68 歳。告別式は 8 月 2 日午前 11 時から台東区東上野の徳雲会館で行われた。喪主は利夫氏。

技能検定実技試験実施

東京都鍍金工業組合技能教育委員会(志田和陽委員長)は、東京都職業能力開発協会の委託を受けて7月23(土)、24(日)の両日、めっきセンター地階会場で平成17年度電気めっき技能検定1級、2級、3級の実技試験を実施した。

受検者は1級組合員11名、員外5名の計16名、2級組合員35名、員外18名の計53名、3級員外1名の合計70名(内1級員外1名2級組合員2名欠席)。

技能教育委員会では試験に先立って、6月9日に検定委員、補佐委員の委嘱、水準会議、実施要領等を決めた。6月25日には受検者に対する課題説明、7月13日リハーサル及び最終チェックなどを行った。

試験は、まず2階待合室で受検者は着替えなどして試験開始時間まで待機、その間誘導係から注意事項の説明を受けて、9時から3人1組で順次試験に入った。

試験内容は、1級はニッケル・クロム、亜鉛・クロメート、分析(不調液調整)、2級はニッケル・クロム、亜鉛・クロメート、分析(中和滴定)、3級はニッケルめっきである。

試験日には中央職業能力開発協会・東京都職業能力開発協会係官の視察、本部・各支部役員が陣中見舞いに訪れ、試験運営に当たる各委員を激励した。

技能検定使用の中古整流器売ります

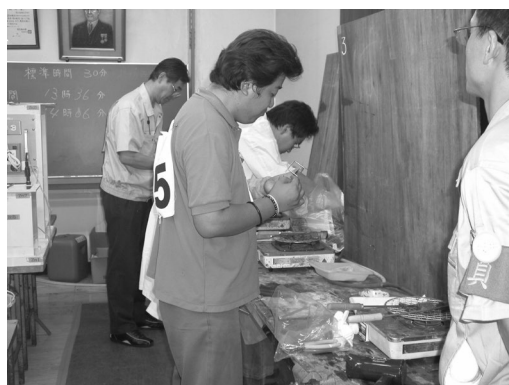
技能検定実技試験用の整流器更新のため、中古整流器を有料頒布します。

電解脱脂用	6台
ニッケルめっき用	3台
クロムめっき用	3台
亜鉛めっき用	3台

希望の方は9月末までに組合にお申し込みください。



(試験まで待機)



(治具製作)



(めっき)

9月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	木			城東支部	
2	金		大田支部	葛飾支部	
3	土				
4	日				
5	月			城北支部	
6	火	監事会	品川支部・大田支部	中央支部	
7	水	正副理事長会・理事会		目黒・世田谷地区	
8	木	環境委員会	城南支部	足立支部	
9	金		城西支部	葛飾支部	
10	土				
11	日				
12	月		城西支部・城北支部	西部支部	
13	火				
14	水		中央支部・本所支部	品川地区	
15	木				全国中央会「全国大会」
16	金		向島支部	葛飾支部	全鉄連北海道東北ブ会議
17	土				
18	日				
19	月	敬老の日			
20	火			向島支部	
21	水		西部支部	本所支部	
22	木				
23	金	秋分の日			
24	土				
25	日				
26	月		城東支部・葛飾支部	蒲田・大森地区	
27	火			城西支部	
28	水		葛飾支部		
29	木				
30	金		足立支部	葛飾支部	

(役員会、委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

東鍍工組・公防協組平成17・18年度役員・委員会構成

理事・監事構成

	城東支部	城西支部	城南支部	品川支部	大田支部
理 事 長			大村 功作		
副理事長	八幡 順一	由田 猛			川上 洋一
専務理事					
常任理事	木下 健次	元井 民夫	中澤 敏明	高倉 利守	志田 和陽
理事・支部長	遠藤 清孝	小橋 秀一	若山 満	藤田 直人	佐藤 富幸
理 事	西田 和幸	荻宿 充久 高橋 達也	小谷野英勝	原 清一	池田 潤一 吉川 進 宮川 容子
監 事	新井嘉喜雄	柏村 一志			江原 一美

委員会構成

	副理事長	委 員 長	副委員長	城東支部	城西支部	城南支部	品川支部
総財務委員会	由田 猛	小澤 栄男	池田敏則 篠根健一	木下健次 遠藤清孝	元井民夫 小橋秀一	中澤敏明 若山 満	高倉利守 藤田直人
広報委員会	姫野正弘	神谷 博行	半田 實 木下健次	内山雄介	溝口昌範	板倉富美子	藤田直人
環境委員会	川上洋一	安斎 克茂	菊池忠男 元井民夫	西野 亨	内田悦美	小谷野英勝	下田 篤
技能教育委員会	八幡順一	志田 和陽	高倉利守 中澤敏明	芹川充公 岡崎 覚	荻宿充久 大沢 実	若山雅史	菅野勝靖
ホムページ 特別委員会		江原 一美					藤田直人
協組運営委員会		間部健太郎	委員：江原一美、神谷博行、山田英佐夫、小原俊幸				
協組処理委員会		間部健太郎	委員：当該支部長				

名誉顧問・顧問・相談役

	城東支部	城西支部	城南支部	品川支部
名誉顧問・顧問・相談役	(相談役) 梶原信孝 遠藤 清	(顧 問) 小橋秀壽 溝口幸範 (相談役) 板橋利次 戸塚由雄 佐藤雄三 飯島 昭	(顧 問) 木村秀利 (相談役) 並木 一	(顧 問) 草間英一 (相談役) 手塚忠大 佐藤二郎 下田幸作 寺田孝一 小倉芳夫



城北支部	中央支部	足立支部	葛飾支部	向島支部	本所支部	西部支部	員 外
	間部健太郎					姫野正弘	
						(工組) (協組)	青木治郎 小原俊幸
篠根健一	小嶋摂郎	小澤栄男	神谷博行	池田敏則	安斎克茂	半田 實	
今泉好隆	木下好雄	永田一雄	小倉攻一	石田昌久	山田英佐夫	西原敬一	
高松俊和	斎藤 功	細井 碧	菊池忠男 広根淳一	仲俣雅行	岡本博司	柴 太	
平野普三雄			石川進造				

大田支部	城北支部	中央支部	足立支部	葛飾支部	向島支部	本所支部	西部支部
志田和陽 佐藤富幸	今泉好隆	小嶋摂郎 木下好雄	永田一雄	神谷博行 小倉攻一	石田昌久	安斎克茂 山田英佐夫	半田 實 西原敬一
石川貞行	佐藤賢一	堀江 清	小島一浩	広根淳一	籠利達郎	野田光昭	岡 正典
葛西康二	上原裕司	中村建輝	磯村博明	佐藤秀昭	向坪 昭	安斎克茂(兼任)	柴 太
内藤善達	大和田昌宏 田村卓也	石井徹夫	豊田金造	中田充彦 太田幸一	坂井正広	安西健一郎	佐藤 晃
			大川和俊	柴田 徹			

大田支部	城北支部	中央支部	足立支部	葛飾支部	向島支部	本所支部	西部支部
(顧問) 海老名平吉 内藤 雅文 (相談役) 江原 猛二 鈴木 健吾	(顧問) 野上榮一 (相談役) 大和田博 田村哲夫 鈴木康之 海野吉正		(名誉顧問) 瀬田新二 (相談役) 野澤宗市 豊田金司	(顧問) 太田寿一 (相談役) 安良岡一晃 西谷幸一	(相談役) 仁平皓三		(相談役) 山下陽右

平成 17 年度・18 年度

東京都鍍金工業組合 東京鍍金公害防止協同組合 役員

(担当委員会) [所属支部]

理事長・副理事長・専務理事



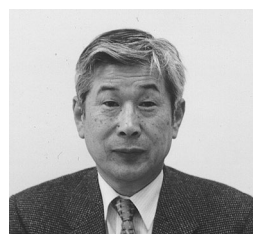
理事長 大村功作
〔城南支部〕



副理事長 姫野正弘
(広報委員会)
〔西部支部〕



副理事長 由田 猛
(総財務委員会)
〔城西支部〕



副理事長 川上洋一
(環境委員会)
〔大田支部〕



副理事長 間部健太郎
(公害防止協同組合)
〔中央支部〕



副理事長 八幡順一
(技能教育委員会)
〔城東支部〕



工組専務理事 青木治郎
〔員 外〕



協組専務理事 小原俊幸
〔員 外〕

常 任 理 事



木下健次
(広報副委員長)
〔城東支部〕



元井民夫
(環境副委員長)
〔城西支部〕



中澤敏明
(技能教育副委員長)
〔城南支部〕



高倉利守
(技能教育副委員長)
〔品川支部〕



志田和陽
(技能教育副委員長)
〔大田支部〕



篠根健一
(総財務副委員長)
〔城北支部〕



小嶋摂郎
(総財務委員)
〔中央支部〕



小澤栄男
(総財務委員長)
〔足立支部〕



神谷博行
(広報委員長)
〔葛飾支部〕



池田敏則
(総財務副委員長)
〔向島支部〕



安斎克茂
(環境委員長)
〔本所支部〕



半田 實
(広報副委員長)
〔西部支部〕

支部長・理事



遠藤清孝
〔城東支部〕



小橋秀一
〔城西支部〕



若山 満
〔城南支部〕



藤田直人
(ホームページ 特別委員)
〔品川支部〕



佐藤富幸
〔大田支部〕



今泉好隆
〔城北支部〕



木下好雄
〔中央支部〕



永田一雄
〔足立支部〕



小倉攻一
〔葛飾支部〕



石田昌久
〔向島支部〕



山田英佐夫
〔本所支部〕



西原敬一
〔西部支部〕

理 事



西田 和幸
〔城東支部〕



荻宿 充久
(技能教育委員)
〔城西支部〕



高橋 達也
〔城西支部〕



小谷野英勝
(環境委員)
〔城南支部〕



原 清一
〔品川支部〕



池田 潤一
〔大田支部〕



吉川 進
〔大田支部〕



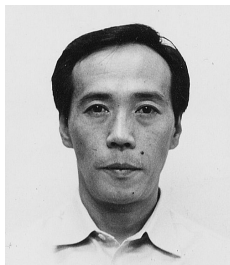
宮川 容子
〔大田支部〕



高松 俊和
〔城北支部〕



斎藤 功
〔中央支部〕



細井 碧
〔足立支部〕



菊池 忠男
(環境副委員長)
〔葛飾支部〕

理 事



広根 淳一
(広報委員)
〔葛飾支部〕



仲俣 雅行
〔向島支部〕



岡本 博司
〔本所支部〕



柴 太
(環境委員)
〔西部支部〕

監 事



新井嘉喜雄
〔城東支部〕



柏村 一志
〔城西支部〕



江原 一美
(HP特別委員長)
〔大田支部〕



平野普三雄
〔城北支部〕



石川 進造
(環境プロジェクト委員長)
〔葛飾支部〕

広報委員会委員



内山 雄介
〔城東支部〕



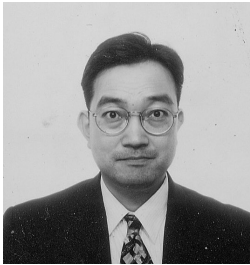
溝口 昌範
〔城西支部〕



板倉富美子
〔城南支部〕



藤田 直人
〔品川支部〕



石川 貞行
〔大田支部〕



佐藤 賢一
〔城北支部〕



堀江 清
〔中央支部〕



小島 一浩
〔足立支部〕



広根 淳一
〔葛飾支部〕



籠利 達郎
〔向島支部〕



野田 光昭
〔本所支部〕



岡 正典
〔西部支部〕

環境委員会委員



西野 亨
〔城東支部〕



内田 悦美
〔城西支部〕



小谷野英勝
〔城南支部〕



下田 篤
〔品川支部〕



葛西 康二
〔大田支部〕



上原 裕司
〔城北支部〕



中村 建輝
〔中央支部〕



磯村 博明
〔足立支部〕



佐藤秀昭
〔葛飾支部〕



向坪 昭
〔向島支部〕



安齋克茂(兼任)
〔本所支部〕



柴 太
〔西部支部〕

技能教育委員会委員



芹川 充公
〔城東支部〕



岡崎 覚
〔城東支部〕



荻宿 充久
〔城西支部〕



大沢 実
〔城西支部〕



若山 雅史
〔城南支部〕



菅野 勝靖
〔品川支部〕



内藤 善達
〔大田支部〕



大和田昌宏
〔城北支部〕



田村 卓也
〔城北支部〕



石井 徹夫
〔中央支部〕



豊田 金造
〔足立支部〕



中田 充彦
〔葛飾支部〕



太田幸一
〔葛飾支部〕



坂井正広
〔向島支部〕



安西健一郎
〔本所支部〕



佐藤 晃
〔西部支部〕

ホームページ特別委員会委員



江原 一美
(委員長)
〔大田支部〕



藤田 直人
〔品川支部〕



大川和 俊
〔足立支部〕



柴田 徹
〔葛飾支部〕

名誉顧問・顧問・相談役



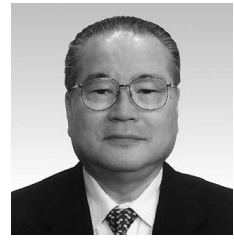
名誉顧問 瀬田新二
(セテック株)
〔足立支部〕



顧問 海老名平吉
(エビナ電化工業株)
〔大田支部〕



顧問 小橋秀壽
(株清化学)
〔城西支部〕



顧問 草間英一
(株三ツ矢)
〔品川支部〕



顧問 溝口幸範
(株旭電化研究所)
〔城西支部〕



顧問 太田多一
(太田鍍金工業所株)
〔葛飾支部〕



顧問 木村秀利
(木村鍍金工業株)
〔城南支部〕



顧問 内藤雅文
(平和工業株)
〔大田支部〕



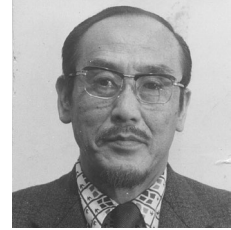
顧問 野上榮一
(野上化学工業株)
〔城北支部〕



相談役 江原猛二
(メイホー株)
〔大田支部〕



相談役 並木 一
(有寿 豊)
〔城南支部〕



相談役 手塚忠大
(有不二電化鍍金工業)
〔品川支部〕

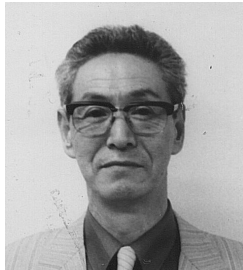
相 談 役



相談役 梶原信孝
(有)松尾鍍金工業所
〔城東支部〕



相談役 大和田博
(有)大和田鍍金工業所
〔城北支部〕



相談役 板橋利次
(有)板橋鍍金工業所
〔城西支部〕



相談役 佐藤二郎
(有)佐藤硬質鍍金工業所
〔品川支部〕



相談役 野澤宗市
(足立工業株)
〔足立支部〕



相談役 仁平皓三
(株)仁平鍍金工業所
〔向島支部〕



相談役 田村哲夫
(有)田村化学工業
〔城北支部〕



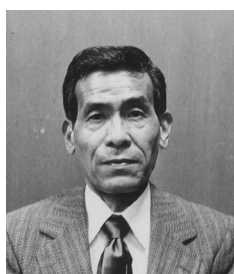
相談役 戸塚由雄
(株)瑞 光
〔城西支部〕



相談役 豊田金司
(有)トヨタ電鍍
〔足立支部〕



相談役 安良岡一晃
(三晶化学工業株)
〔葛飾支部〕



相談役 下田幸作
(有)二幸精鍍研究所
〔品川支部〕



相談役 遠藤 清
(有)朝日鍍金工場
〔城東支部〕

相 談 役



相談役 寺田孝一
(金剛ブロンズ工業(株))
〔品川支部〕



相談役 鈴木康之
(有鈴木鍍金工業所)
〔城北支部〕



相談役 山下陽右
(山下産業(株))
〔西部支部〕



相談役 佐藤雄三
(株佐藤鍍金工業所)
〔城西支部〕



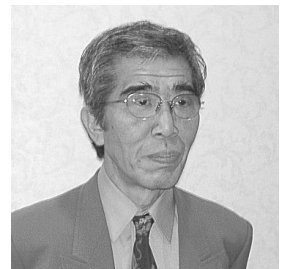
相談役 飯島 昭
(飯島鍍金工業(有))
〔城西支部〕



相談役 小倉芳夫
(小倉鍍金工業(株))
〔品川支部〕



相談役 鈴木健吾
(新日東電化協業組合)
〔大田支部〕



相談役 海野吉正
(株海野鍍金工業)
〔城北支部〕



相談役 西谷幸一
(有亜鉛鍍金工業西谷)
〔葛飾支部〕

部会長・青年部会長



菊池 忠男
(亜鉛めっき部会長)



荒木 誠
(工業用クロムめっき部会長)



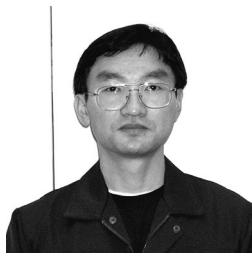
野澤 宗市
(D P 部会長)



仁木 久之
(連合青年部会長)
(城北青年部会長)



入内島正悟
(城南青年部会長)



高橋 利男
(足立鍍友会会長)



石川 英孝
(葛飾青年部会長)



岩井 孝之
(向島若葉会会長)



酒巻 正明
(本所墨鍍会会長)



鈴木 信夫
(西部五月会会長)

工業組合・協同組合事務局職員

工業組合事務局職員



前列左から前田孝総務課長、斉藤弘幸環研主任、志賀孝作環研所長、青木治郎専務理事、
長嶋政人技術課長、西須伸夫、神戸徳蔵訓練校教頭、後列左から宮部圭典、三嶋若菜
大田黒祥子、島田良美、近藤寿雄、古橋史江、柴田京子、戸井崎茂、井手 久

協同組合事務局職員



前列左から大野克博所長、小原俊幸専務理事、新井健二業務課長
後列左から内田義昭、軍司幸江、久保重一

表技協・めっき部会

3 価クロメートの現場での実施状況

(株) 梅田鍍金工業所・永田一雄氏講演

(社)表面技術協会・めっき部会は7月例会を、7月15日(金)午後1時半から、新宿区神楽坂の東京理科大学・理窓会館で、「3 価クロム化成処理の現状と課題」をテーマとして三件の講演を行った。その内の一件として(株)梅田鍍金工業所・永田一雄氏が「3 価クロメートの現場での実施状況」をテーマに講演した。概要は次の通り。

当社は従業員数 23 名の亜鉛めっきの専門工場です。顧客の殆どがねじ業界です。ねじの取扱い範囲は自動車、家電、OA機器、電子機器等幅広い。国内のねじ業界が中国と対抗するためには、寸法精度の精密化とマイクロネジなど極小化に向かっていました。一方、フッ素、ホウ素、窒素などの新しい環境規制物質に対応する必要がありました。この2つの課題に対応するための解決手段がハイパージンケート亜鉛の採用と3 価クロメートでした。

2000 年の当初、当社の排水量は 50m^3 以上でしたのでフッ素などの規制値は生活環境項目で 15ppm の規制がありました。ホウ素はニッケルめっきで使用していますが、希釈されて規制値以下でした。フッ素は $50\sim 60\text{ppm}$ 、窒素は 300ppm も発生していました。窒素は塩化亜鉛浴に塩化アンモニウムとして多量に含まれています。これを塩化カリとの折衷浴とし、めっき水洗水をシアン系排水路に流すことによって驚くほど軽減しました。

問題はフッ素でした。フッ素はおもに6 価光沢クロメート液に 5g/l ほど含まれています。老化すると更新するので膨大な量になり、規制値を超えるフッ素が排出されます。フッ素の低濃度化を試みましたが、ある程度、含まれていないと光沢も青味も出ません。

そこで低濃度化をあきらめてフッ素を排水処理することを考えました。実験するに当たって、フッ素を現場的に簡易に分析する方法が必要でした。フッ素イオン電極で分析すると簡易に正確に分析できました。フッ素はカルシウムを加えてフッ化カルシウムにすると沈殿します。しかし、フッ化カルシウムは 15ppm ほど再溶解します。そこ



で塩化マグネシウム、ポリ塩化アルミニウムを沈殿補助剤として使用すると1 ppm以下にはなります。これはあくまでも2リットルのピーカー実験の話です。排水100m³以上の処理水にこれらの沈殿剤を加えると想像を絶する補給量になります。実際には老化液を集めて分別処理します。何ラインもある老化液を1箇所を集めて分別処理するということは不可能です。また、フッ化カルシウムを溶出試験すれば、フッ素が汚泥から検出される可能性もあります。

実験で出来るということと、現場では出来るということは別問題です。結論としてフッ素は使用出来ないということになりました。そこで試みたのが僅かに数百 ppmほどフッ素を含む、3価光沢クロメートの採用でした。これは優れもので光沢も青味も6価光沢クロメートとまったく遜色なく、6価光沢クロメートを全て3価光沢クロメートに変えました。フッ素の排水濃度は1 ppm以下になりました。

ハイパージンケート亜鉛は優れた均一電着性を発揮します。一般的には電気めっきは製品に対して電流分布があり、均一にめっきはつきません。寸法公差の厳しい精密部品に取り組んでいる得意先にはそんな言い訳をしていました。膜厚が均一でなく製品にならないのであれば、無電解ニッケルめっきに仕事が流れていきました。亜鉛でも無電解ほどではなくともそれに近い均一電着性が求められていました。

そんな得意先の要望により、ある1ラインをシアン浴からハイパージンケート亜鉛に変えました。3価有色クロメートが増えましたので、ハイパージンケート亜鉛と3価有色クロメートとの耐食性の相性が良いとのことで、一番液量の多いシアン浴もハイパージンケート亜鉛浴に変えました。作業に慣れるまで2年間くらい苦労はしました。ハイパージンケート亜鉛はシアンを加えてもとのシアン浴に戻すことは出来ません。しかし諦めずに、私に付き合ってくれた従業員には申し訳なく思いつつ、感謝しています。

ハイパージンケート亜鉛は優れためっきシステムであります。今から28年前、亜鉛めっきのノンシアン化に取り組んだときのジンケート浴は金属濃度が低下して、転換は出来ませんでした。ハイパージンケート亜鉛の供給は、別槽の亜鉛溶解槽で鉄と亜鉛を接触させイオン化列の差により化学的な溶解によります。それにより亜鉛金属濃度の調整を容易にしています。

3価クロメートに話を戻しますが、ハイパージンケート亜鉛と3価光沢クロメートの組合せで、環境対応の亜鉛めっきの話は終わりにはなりませんでした。

3価光沢クロメートにトップコートして3価有色クロメートにすれば良いと判断していましたが、トップコートそのものが認められず、3価光沢クロメートのほかに3価有色クロメートの導入が急遽必要になりました。

3価有色クロメートは6価有色クロメートのように途中で引き上げて色合いで上がりを見極めることができません。確かな耐食性を保障するには、3価有色クロメート処理液のpH、温度、浸漬時間は基準を設け、同一作業条件で管理しなければなりません。現場の人間の経験と勘に頼れません。

また、不純物の許容量があり建浴直後の品物の耐食性と、継続使用して廃棄直前の耐食性が低下してはなりません。亜鉛の溶解量、鉄、銅など許容量が決められています。そのためにはランニングバックデータを作成し、耐食性との関連を確認する必要があります。3価有色クロメートはエンドユーザーの工程監査があります。その監査項目に作業条件、処理液の

不純物管理などの項目があります。監査があるからやるのではなく、あくまでも品質を保証するために自主的にやらなければならないことです。

3価有色クロメートの耐食性は6価有色クロメートと比較して遜色はありません。これは文献等によるものでなく実際に毎日、塩水噴霧試験を行ないながら感じていることです。ハイパージケート亜鉛との組合せが安定した耐食性がありますが、良く管理された酸性塩化亜鉛浴、シアン化亜鉛浴でも耐食性規格をクリアーします。

4年前から3価黒色クロメートに取り組んでいますが、6価黒色クロメートを超えるものは出ていません。黒色度、光沢度、ねじ十字穴内のつきまわり、対磨耗性、いずれも6価黒色クロメートが断然優れています。3価黒色クロメート自体の皮膜は緻密でなく、炭状のようなもので、仕上げ処理、トップコートは不可欠です。トップコートは電導性が悪くなるので、ある電機メーカーでは禁止されています。

3価有色クロメートも3価黒色クロメートもねじのトルクに関してはそれほど問題になる差はありません。薬品建浴濃度が高く、不純物の影響を考慮するとあまり長くランニングできません。したがって処理コストは6価有色クロメートの適正単価の1.5～2倍になります。

排水処理ではコバルト、有機酸が含まれているので、3価有色クロメートの処理量が増えるといろいろと問題が出てきます。しばらくは毎日、排水の分析をして確認する必要が有ります。当社では現在問題なく推移しています。

現在、環境省が進めている「水生生物保全にかかわる水質基準」で亜鉛の環境基準が0.03 p p mに決まりましたが、本規制になると0.3 p p mの規制になります。当社では凝集沈殿した上澄み液について全量ろ過しています。それであってもこの規制をクリアー出来ません。水生生物の保全のため、めっき業者が犠牲になると日本の産業そのものが成り立たなくなります。今後の経過に注意しなければなりません。産業の発展と自然との調和を考え、あまり無理な規制は考え物です。

2004年度より家電業界、OA機器メーカーは6価有色クロメートを打ち切り、3価有色クロメートへ移行しています。2005年度に入り3価有色クロメートは急増しています。当社では2004年9月で6価有色クロメートと3価有色クロメートが売上で同額になりました。自動車業界では2005年度中に6価有色クロメートは廃止になる見込みです。私の知っている限りでは殆どのめっき業者がなんらかしらの形で3価有色クロメートに取り組んでいます。

21世紀は環境の世紀でありさまざまな物質が使用禁止になり、製品中への含有が許されない時代になってきています。加えて排水処理の困難な新しい化学物質が規制の対象になってきています。それらの規制に対して今まで使用していた物質が使えなくなり、代替え物質で対応しなければなりません。現場的に量産化へ対応するには、多くの困難な問題をクリアーしなければなりません。2000年度より環境に配慮した新しい亜鉛めっきシステムに取り組んできましたが、山を越えたら、遠くのほうにまた山がそびえていて、多くの労力を費やしてきました。これからもその連続であろうことは想像に難くありません。困難な時代はビジネスチャンスと前向きに捉え、焦らず、慌てず、あきらめないで、今出来ること、今やらなければならないことを確実に誠実にやっていくしかないのではないかと思います。

組合員 各位

亜鉛めっき部会講習会開催のお知らせ

東京都鍍金工業組合
亜鉛めっき部会
会長 菊池 忠男

亜鉛めっき部会(菊池忠男会長)は、昨年と同様に、東京都鍍金工業組合(大村功作理事長)との共催により 6 価クロムフリーの講習会を下記のとおり開催致します。皆様の多数のご参加をお願い申し上げます。

記

日 時	平成 17 年 9 月 14 日 (水) 午後 6 時 30 分より
会 場	めっきセンター 4 階 会議室
演 題	『3 価クロメートの現場での実施状況』
講 師	(株)梅田鍍金工業所 代表取締役 永田一雄 氏
申込方法	下記申込書にご記入のうえ、FAX にて送付して下さい。
申込締切日	平成 17 年 9 月 8 日(木) 定員 60 名になり次第締め切らせていただきます。
対 象	亜鉛めっき部会員および工業組合組合員と、その従業員
会 費	お一人様 1, 000 円 (軽食・飲み物・テキスト付) (会費は当日ご持参ください。)
問い合わせ	東京都鍍金工業組合 事務局 / 近藤 TEL 03-3814-5621 FAX 03-3816-6166

平成 17 年 9 月 14 日開催 講習会出席申込書

支部

会社名

氏名

出席者数

名

※出席者が複数の場合は、出席者氏名を余白にご記載願います。

※お申し込みは、この用紙で F A X (0 3 - 3 8 1 6 - 6 1 6 6) にてお願いします。

9 月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00 D:17:00～21:20)				
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)
2	金	A	無電解めっき① (特殊めっき法)	無電解ニッケルめっき液の作製、各種素材による実験、無電解めっきの析出原理。 鍍金組合訓練校 神戸徳蔵
		B	後処理① (めっき法)	クロメートの皮膜構成と処理法、代替クロメート皮膜と処理法、耐食性等。 (資)東亜鍍金工場 川上洋一
6	火	A	無電解めっき② (特殊めっき法)	無電解ニッケルめっき皮膜の性質と特徴、めっき作業、浴管理、合金めっき等 鍍金組合訓練校 神戸徳蔵
		D	労働安全法規① (安全衛生)	労働安全衛生法、有機溶剤中毒と特定化学物質等障害予防規則。 鍍金組合環研 長嶋政人
9	金	A	無電解めっき③ (特殊めっき法)	無電解銅、無電解コバルト、その他無電解めっきの構成、廃液処理等。 鍍金組合訓練校 神戸徳蔵
		D	有機溶剤(医学)② (安全衛生)	有機溶剤による健康障害、その予防処置と応急措置、各論。 岡村勝郎、石川辰雄
13	火	A	すず・接合めっき① (めっき法)	すずの性質、すずめっきの特徴、すずめっき浴の種類と酸性浴等。 石原薬品(株)研究部 辻清尊
		D	有機則(環境)③ (安全衛生)	作業環境の測定評価と改善、局所排気装置、急性中毒の原因と防止対策等。 鍍金組合環研 志賀孝作
16	金	A	すず・接合めっき② (めっき法)	アルカリ性浴の特長、浴管理法、すずのウィスカー等。 石原薬品(株)研究部 辻清尊
		D	特定化学物質(医学)④ (安全衛生)	特定化学物質による障害の原因、症状、救急措置と対応策等。 岡村勝郎、石川辰雄
20	火	A	すず・接合めっき③ (めっき法)	はんだめっき浴、鉛レスはんだ浴とそのめっき条件等。 【定期試験②】 石原薬品(株)研究部 辻清尊
		D	特化則(環境)⑤ (安全衛生)	特定化学物質による健康障害と防止、環境管理、局所排気装置と点検等。 鍍金組合環研 志賀孝作
27	火	A	合金めっき① (めっき法)	原理、単極電位、合金の析出形態、合金めっき共通の諸特性。 キザイ(株) 丸田正敏
		D	保護具⑥ (安全衛生)	特化物作業及び有機溶剤作業の保護具の構造、規格、使用方法、管理等。 鍍金組合環研 長嶋政人
30	金	A	合金めっき② (めっき法)	装飾用合金めっきの浴組成とめっき特性等。 キザイ(株) 丸田正敏
		D	作業環境⑦ (安全衛生)	特化物及び有機溶剤の作業環境の測定、評価と改善。 【特化則等試験】 鍍金組合環研 長嶋政人

※聴講料は1科目クーポン券3枚、または7,500円です。

第 39 回上級表面処理技術講座

—受講生募集—

(株)ハイテクノは第 39 回上級表面処理技術講座(11 月開講)の受講生を募集する。

開講以来 39 年目を迎え既に約 1600 名の修了者を業界に送り出している。最近の講師陣には多くの卒業生を数えるようにもなった。開講以来教育方法を工夫しながら改善を重ね、ビデオ、プロジェクター等の A/V 機器をフルに利用した効果的な授業を行っている。また時代の変遷とともに、表面処理技術の内容も変化し、進歩するので、毎年時代に即応したカリキュラムを編成し続けてきた。一方的な知識の詰め込みだけでなく、各講座単位ごとに行われる確認テスト、グループ討論や修了認定研究発表などを通じて幹部にふさわしい人間教育も行っている。

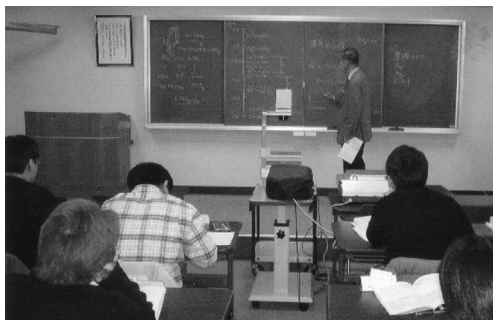
講座は「一般めっきコース」と「回路・実装コース」の 2 コースがあり、「一般めっきコース」では湿式めっき技術を中心とするほか、ドライプレーティング、陽極酸化、工業塗装等の関連表面処理科目も設け、幅広い表面処理技術分野を学ぶことができる。

「回路・実装コース」では新しい時代に即した回路・実装技術者の養成を図る。また、工場幹部に必要な工場経営や生産管理、品質管理、環境管理などの管理科目を設けている。それぞれのコースにはじっくり教育を目的とする本科(基礎科目+専門科目)と、忙しい人のための専修科(専門科目のみ)が選択できる。

講座では、普通の大学や講習会とは違って、時間厳守の方針をとり、出欠を厳しく管理している。各授業の終わりには内容確認の目的の簡単なテストを行う。

講師陣は受講生のアンケート回答により受講生の理解度をフィードバックして授業内容や授業方法の改善に努めている。

講座は午前 10 時から午後 5 時までで、東北や関西地区からの新幹線通学も可能であ



る。受講生によるグループ討論会、懇親会、修了認定研究等を通して発表力、討論能力を養成すると同時に人間関係もつくる。

講座期間は本科が平成 17 年 11 月から 18 年 11 月、専修科は平成 18 年 2 月から同年 11 月まで、原則として木曜日開講(AM10:00~PM5:00)一部土曜日開講。定員は本科一般めっきコース 20 名、回路・実装コース 10 名、専修科は各コース 15 名(申込順受講認可)。講堂は京浜島センタービル。

費用は本科の入学金がハイテクノ会員企業無料、その他企業 5 万円、本科の受講料は年間 50 万円。専修科の入学金はハイテクノ会員企業無料、その他企業 5 万円、受講料は年間 45 万円。入学金、受講料は 10 回分納方式を勧めている。申込締切は 10 月 20 日。

なお同講座には「キャリア形成促進助成金」制度が適用される。従業員の派遣を計画の事業所は 8 月中旬に事業内職業能力開発計画作成の相談・提出を、当地の雇用・能力開発機構(ナビダイヤル 0570-001154)へ。

受講資格は、学科の程度は高専、大学程度なので、大卒(文系を含む)は勿論、高卒程度の知識と意欲があればついて来られるので資格制限はしていない。また所定の合格認定単位数に達し修了認定研究の審査に合格した者に対しては修了認定証授与規程に基づき修了認定証が授与される。

申込みは、上級表面処理技術講座事務局(〒143-0003 大田区京浜島 2-16-1 京浜島センタービル内)

TEL03(3790)3174(代) FAX03(3799)0928

<http://www.hightechno.co.jp>

■十日会

7 月例会

日本鍍金協会・十日会(斎藤晴久会長)は7月11日(月)午後7時からめっきセンターで例会を開催した。

先にライブドアのM&Aが世間の注目を集めたが、めっき業界においても吸収合併ということが予想されており、日本の事業戦略コンサルティングで有名なCDI((株)コーポレートディレクション)の吉尾雅紀氏を招いて、中小零細製造業の将来的事業戦略からM&Aを含めて講演を頂き、会員20名が聴講した。

はじめに太田幸一副会長の司会で開会し、斎藤会長は「これから暑い日が続くが、我々業界にとって厳しいシーズンとなる。最近大手製造業の決算で増収増益という発表をよく目にするが、我々業界にとってはまだまだ厳しい経営環境が続いている。環境問題、親企業の海外移転、原材料高などいろいろな問題があるが、十日会は生の情報を提供するというところで会員企業に役立つ活動をしていきたい」と挨拶した。

吉尾講師は、テーマであるM&Aの前に、まず事業成功の鍵はなにかを考え、経済性を分析してM&Aを説明したい、と話を進めた。それによると、同社は創立20年の経営戦略的コンサルタント業。戦略立案、戦略実行・定着まで行う。通常は経営トップと一緒に戦略を作って仕事は終わらせるが、同社はミドル層と一緒に、同社スタッフがいなくなっても会社を変革できる人材の育成まで行うという。

まずその会社に競争の優位性があるか



をみる。事業成功の鍵なる要因は「競争優位性」であり、競争優位性を会社の仕組みとして作る。事業経済性は、その事業がどんな儲かり方をしているのか、業種業界によって、規模型事業、特化型事業、分散型事業、手詰型事業等に分類できる、などを解説するとともに、M&A／企業再生事例などを説明した。

なお、今後の十日会行事予定の報告があり、多数の参加を求めた。

- ①納涼会：8月24日(水)／銀座 桜蘭
- ②9月例会：9月15日(木)／めっきセンター

- 講師：内外ハイグラス(株)社長・竹が原攻氏「中国のめっき業界の現状と景況」
- ③第42回JES秋季大会：10月15～16日(土日)／ホテル葛城(愛媛県松山市)

- 15日：住友金属鉱山(株)ニッケル工場見学、16日：松山市内観光

- ④中国視察旅行：11月10～13日(木～日)

十日会会員企業の協力により、現地のコーディネートを実現。安全を確保し、ホテルも4星以上でコストを安くするためツアー会社を使わずに自分たちの力で視察旅行を行う。日程：10日成田空港集合、上海浦東空港着、昆山市内のホテル

チェックイン。11 日太倉市内の鍍金工場見学、12 日昆山市内の鍍金工場、三進製作所見学、13 日上海空港より帰国。見学先：太倉市内：Ni・Cu 鍍金工場、太倉億鴻工場（PP、PVC、鍍金設備製造）、太倉綿鴻鍍金工場（Cu、亜鉛鍍金専門）、昆山市内：昆山鍍金工場、三進製作所蘇州工場（濾過器、排水処理設備）、会費：1 人総額 15 万円予定、申込締切 9 月 22 日

⑤忘年会：12 月 2 日

東京都職業能力開発協会の 研修案内

同協会は下記のように研修を実施している。東京都鍍金高業組合は同協会の会員であり、非会員より安い料金で受講でき、かつ早い時期に申込受付けを開始してもらえらる。研修内容や申込方法等、詳細については組合本部事務局前田(Tel 03-3814-5621)まで。

▽新入社員フォローアップ研修

日 時 平成 17 年 10 月 6～7 日(木金)9:30～16:30

受講料 1 名 20,000 円(テキスト代含む)
定 員 40 名

申込受付 8 月 25 日～9 月 15 日(先着順
定員になり次第締切)

講 師 東京都職業能力開発協会専任講
師 駒津義郎氏

▽営業職リーダー研修

日 時 平成 17 年 10 月 11～12 日(火水)9:30～16:30

受講料 1 名 5,000 円(テキスト代含む)
定 員 35 名

申込受付 8 月 30 日～9 月 20 日(先着順
定員になり次第締切)

講 師 (株)クエスト講師 早野雄二氏
▽中堅社員研修

日 時 ①平成 17 年 10 月 13～14 日(木金)9:30～16:30

②平成 17 年 10 月 26～27 日(水木)9:30～16:30

受講料 1 名 20,000 円(テキスト代含む)
定 員 各 40 名

申込受付 9 月 1 日～9 月 21 日(先着順
定員になり次第締切)

講 師 ①東京都職業能力開発協会専任
講師 駒津義郎氏

②東京都職業能力開発協会専任
講師 島 久雄氏

(会場はいずれも千代田区飯田橋 3-10-3
東京しごとセンター地下講堂)

日本表面化学 新社長に兼子義章氏

日本表面化学(株)は 7 月 25 日第 37 回
定時株主総会並びに取締役会において次
のとおり役員が選任され、それぞれ就任
された。

代表取締役社長 兼子義章

専務取締役(工場長) 石田俊一

常務取締役(統括部長) 山室正明

取締役(大阪支店長) 梅花 豊

取締役(名古屋支店長) 鈴木誠実

取締役(管理部長) 宮城元隆

監査役 寺田光博

執行役員(海外部長) 北浦一元

執行役員(開発営業部長) 川西 修

執行役員(北関東営業所長) 佐藤克昌

執行役員(研究所長) 前田光秀

前代表取締役社長の柳川司行氏は名誉顧問に就任された。

ピックアップ

5 マイクロメートル微粒子にメッキ

(日刊工業新聞 05.7.4)

メッキは製造業を支える基盤技術の一つ。ともするとローテクと思われがちなのこの表面処理加工技術にナノテクノロジーの観点を取り入れ、ハイテクにしたベンチャー企業がある。ミレニアムゲートテクノロジー(大阪市 武内勇社長)がそれ。現在は新しい機能性材料の開発などで大手企業から引っ張りだこだ。得意とするのは、超微粒子を分散させながらその粒子表面にメッキを施す技術。粉体微粒子だと直径5マイクロメートル以上あれば可能で、その表面に厚さ数ナノメートルで金属をメッキしていく。ナノテクの世界では粒子が小さくなるほど表面が活性化して新たな特性が現れる。微粒子をメッキする場合、凝集性が高まることから「粒子と粒子が接触していた部分にはメッキがつかないという問題があった」(武内社長)。そこで同社では、目的に応じてメッキ液や電解を独自に開発すると同時に、電気メッキや無電解メッキを使い分け、粒子をコントロールしていく手法をとった。そのため「1粒1粒、確実にメッキして機能を付与できる」(同)また、金属をナノ粒子として母材表面に分散させる技術も確立済み。開発してきたメッキプロセスはナノ触媒、2次電池材料などの開発に使われており、数多くの大手企業との共同研究に取り組む。

高齢者にやりがい

(日刊工業新聞 05.7.7)

千代田第一工業(狛江市 鈴木信夫社長)は、高齢者を活用した新ビジネス開拓に乗り出した。利益追求型ではなく、高齢者のやりがいの提供を目指す。大手企業を定年退職した金

型などの技術者や営業、工場管理などのノウハウを持った人材を集め、機能メッキ応用商品の拡販と、組立などの新分野進出への可能性を探る。

高齢者活用ビジネスに取り組むのは千代田第一工業の全額出資子会社である千代田技研(狛江市 鈴木達雄社長)。すでに金型技術者ら2名を契約写真として採用した。当面は千代田第一工業の硬質炭化クロムメッキ「ダイクロン」、滑り特性を高めた「ブラストロン」を利用した商品の開発、拡販に取り組む。当初は10人程度での展開だが、将来は高齢者が持つ技能や知識、ネットワークを活用して、コンサルティングや人材派遣などへの拡大を狙う。千代田技研は今回の取り組みに関する売上げや利益目標などを設定していない。利益を追求するのではなく契約社員やパートに配分していく考えで、鈴木社長は「健全な高齢者の就業環境のあり方を探りたい」と話している。

黒色クロムメッキに着手

(日刊工業新聞 05.7.15)

佐藤工業所(三重県桑名市 佐藤秀二社長)は、新たに黒色クロムメッキ処理事業に着手した。同事業専用の工場を桑名市に新設し、このほど1ラインを稼働した。精密機械や光学機器部品の表面処理需要を見込む。新事業で初年度2億4000万円の売上げを目指す。主力の工作機械部品などの機械加工に加え、業容拡大を狙う。

新事業開始にあたり設置した専用工場は、建て面積約1000平方メートル。総投資額は2億円。稼働した1ラインに加え、需要に応じてライン増設を検討する。

黒色クロムメッキは2〜3マイクロメートルの薄膜によって光沢がない黒色に仕上げる。防錆効果のほか、光の反射を防ぐ効果などを持つ。高精度な精密機械部品の表面処理に適している。光の反射による誤動作を防ぐため、半導体製造装置の部品などの表面処理にも需

要が見込めるという。また、新工場内に試験室を設置。6価クロムフリーなど環境対応型の表面処理、フッ素系樹脂やセラミック含有樹脂など複合被膜処理の技術開発も行う。

金属表面処理能力を倍増

(日刊工業新聞 05.7.21)

アカダプレーティング(長野県松本市 赤田哲や?社長)は本社工場を増強、第8世代液晶に対応した製造装置部品の金属表面処理能力を倍増した。本社敷地内に3億2000万円を投じて延べ床面積1200平方メートルの新工場を完成、無電解ニッケルメッキとアルマイトの両方の処理ができる体制を整えた。大型金属部品に対応できるという総合的な能力としては国内最大級という。

無電解ニッケルメッキラインは3トンの金属板に対応し、実処理サイズは全長2800ミリ×幅800ミリ×深さ2400ミリメートル程度。鉄材、アルミ材双方に対応し、剥離の生じない再メッキ技術などを開発して実用化した。

アルマイトも3トンまでの金属板に対応する。サイズは5000ミリ×1000ミリ×3500ミリメートルまで可能。普通アルマイトのほか、つや消し、黒色アルマイトにも対応する。

汚染土壌 現地でピンポイント処理

(日刊工業新聞 05.7.21)

栗田工業は重金属類に汚染された土壌の処理分野で、掘削や搬出など大がかりな作業を必要とせず現地でピンポイント処理できる新技術を実用化した。専用機を使って汚染土壌に重金属固定剤などを混ぜ合わせ重金属類を不溶化する。鉛やカドミウムなどあらゆる重金属に対応できる。今後は新技術などで差別化をすすめ、04年度に約80億円の土壌・地下水汚染対策ビジネス売上高を、2010年度には160億円に倍増する方針だ。

重金属で汚染された土壌の処理は、これまで掘削機などを使って汚染源となる土壌を除

去し、それをトラックで搬出する大がかりな作業が必要だった。運搬コストがかかるほか、汚染ゾーンが地中深くにある場合は掘削作業も難しい。

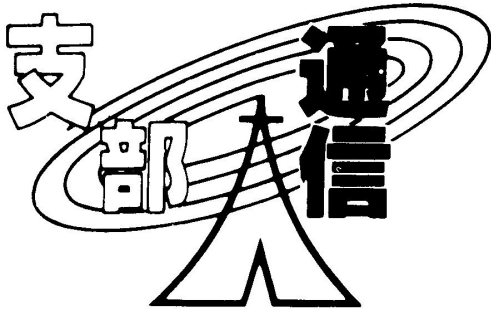
栗田工業が開発した技術は、重金属固定剤などにより汚染源となる重金属を化学反応させて不溶化するもの。地中に薬品を投入して汚染された土壌と混合させる専用機を用いる。これにより汚染土壌をピンポイントで処理できるほか、処理コストも掘削した場合より30〜40%安くなるという。また、重金属の種類に応じた処理剤を用いることで、あらゆる土壌汚染に対応できるという。これらの技術は同社が得意とする水処理技術を応用したことで実現した。

湿式でメッキ厚制御

(日刊工業新聞 05.7.26)

野毛電気工業(横浜市金沢区、佐藤中則社長)は、スパッタリング加工法に代わるメッキ厚制御に優れた「湿式成膜法による半導体ウエハー上の再配線加工技術」を開発した。関東学院大学工学部の本間英夫教授らの研究成果をもとに事業化した。再配線加工技術は成膜装置への投資額が軽減するばかりではなく、メッキ槽の中で一度に多数のウエハーを処理できる。また、電極形成・再配線加工を低価格で行うことが可能で、小型半導体パッケージ製作分野での利用が期待できる。今後5年間で約20億

円の販売を見込む。科学技術振興機構(JST)が25日発表した。開発した技術はメッキ処理の添加剤を適切に選定し、液中電位差を調整することにより、析出条件を最適化した。これにより電極部へのニッケル・金メッキ処理をはじめ、加工精度の高い銅ポスト作製を可能とし、電極部からの再配線加工技術を実現した。



■城東支部

「古代の湯」で納涼会

城東支部(遠藤清孝支部長)は7月15日(金)夕、恒例の納涼会を新小岩の東京天然温泉「古代の湯」で行った。

当日は午後5時から受付けを開始、早くきた人はゆっくりと温泉でくつろぎ、7時から4階宴会場で懇親会を行った。新井嘉喜雄副支部長の司会により、遠藤支部長は「ようこそ城東支部恒例の納涼会にお集まり頂いた。私が支部長の間は納涼会は温泉シリーズでいく、と昨年も

申し上げた。その時も梶原相談役から『いいぞ、いいぞ。やれやれ』と御墨付きを頂いた。本日もどうぞ、おくつろぎ頂きたい。さて、最近は百歳を元気に迎える時代になっている。先日、百歳を元気に迎えるための大事なことは4つあるということを知った。1つは運動すること。つまり歩くこと。1日、最低一万歩は歩くと良い。2つ目は食べ物。1日、1800キロカロリー以内に押さえること。場合によっては1日二食くらいにすると効果がある。3つ目は、ビタミン剤などのサプリメント(健康補助食品)を上手に利用すること。4つ目は、心をいつも快適に保つこと。快い気持ちでいること。この4つを守れば皆さん、百歳まで元気に過ごせる。いつも快適な心を保つことは難しいことかもしれないが、少なくとも本日だけは快適な心でいて欲しい」と挨拶。続いて梶原信孝支部相談役の音頭で乾杯、八幡順一副理事長の中締めまでなごやかに過ごした。



■城北支部

親睦旅行会

城北支部(今泉好隆支部長)は平成 17 年 6 月 18～19 日、2 年に一度の支部親睦旅行を実施した。今回は 2 期 4 年にわたり支部長を務められた篠根前支部長の慰労を兼ねて行われ、神奈川県湯河原温泉のいすゞホテルに一泊した。

懇親会は夕方 6 時より始まり、最初に今泉支部長より、これから 2 年間支部員のみなさんの協力のお願いと、篠根前支部長へのねぎらいの言葉があり、その後、第 2 回土壌汚染処理技術フォーラムの説明を行った。

次に篠根前支部長よりお礼の挨拶があり、その中で 4 年間成し遂げた達成感で一杯で、親子二代にわたり組合に貢献できた喜びを話された。そして、今回永年に



わたって支部会計及び監査を務められた宍戸前会計と須永監査役が記念品と共に表彰された。また、海野相談役には過日の本部総代会において表彰されたことを報告した。

引き続き仁木青年部会長から挨拶があり、鈴木相談役の発声で乾杯した。宴が進み、篠根前支部長を高々と胴上げし、大いに盛り上がった。平野本部監事が挨拶と共に各支部員の繁栄を祈念して中締めを行った。今回近年にない 31 名という多くの参加者があった。(佐藤賢一)



■ 足立支部

土壌汚染の状況と対策講習会

足立支部(永田一雄支部長)は、7月21日(木)午後6時30分より中曽根会館にて30名が出席し、イズミ環境サービス株式会社代表取締役平山昭夫氏、専務取締役・環境事業部長小泉道子氏を講師に迎え、「土壌汚染の状況と対策」という演題で講習会を行った。

はじめに細井副支部長の司会により、平山、小泉両氏が紹介され、続いて永田支部長が「今日は土壌汚染対策で数々の実績があるイズミ環境サービス株式会社様より、対処法などについてお話ししていただく」との挨拶があり、本題に入った。

今回の講習会は今まで勉強してきた土壌汚染問題を、処理業者の経験を交えてあらためておさらいするという形で、最初に土壌汚染対策法、東京都環境確保条例についての説明があった。次に現在操



業中のめっき工場がやらなければいけない事として、漏洩防止・浸透防止に努めること、また、土壌汚染対策法、東京都環境確保条例に抵触するのは廃業した時という事などという話があった。しかし、今すぐ廃業という事に直面していない参加者には他人事というような雰囲気があるのも事実で、具体的な質疑応答までは至らなかった。という事で、今後にも必要に応じて土壌汚染問題についての講習会を開催して行きたいと支部長より挨拶があり散会した。



■城西青年部会

第 34 回総会

城西青年部会は 4 月 15 日午後 6 時 30 分から池袋のホテルメトロポリタンで O B 会員を含めて 17 名が出席して第 34 回総会を開催した。

加藤昇副会長の司会により、戸塚秀孝会長は「ご多忙のなか多数のご出席を頂き感謝申し上げます。本日をもって、青年部会は一時休会となる。父戸塚由雄初代会長より始まり 34 回目の総会を迎えたが、長い間のご協力に感謝申し上げます。現在、青年部会員は支部役員を兼任している人が多く、この現状について昨年 1 年間、会員各位と討論を重ねた結果、一度見直して再出発をはかるべきだとの結論を得て本日を迎えた。しかし、次代の若い人が入ってきた時のことも考え、支部の中に青年部組織を残して頂けることになった。従って連合青年部会には引き続き参加するので、行事案内があるかと思うが、ご協力をお願い申しあげると挨拶した。

戸塚会長が議長となり、各議案を審議、承認した。

平成 16 年度事業報告 高橋達也

平成 16 年度決算報告 岡田 誠

会計監査報告 戸塚秀孝

平成 16 年度連合青年

部会活動報告 溝口昌範

来賓を代表して、小橋秀一城西支部長は「連青の活動には支部役員の代表者が出席するにより連青との係わりが続いている。今後若い次代の人たちの加入次第で

は青年部会の復活もあり得るので、火を消さないよう頑張ってください」と祝辞を述べ、内田悦美氏の閉会の辞をもって総会を終了した。引き続き隣室に会場を移し懇親会を行った。

佐藤雅之副会長の司会により、はじめに戸塚会長は「34 年間、父、戸塚由雄で始まり息子の私の代で一旦休止となる。長い間皆様のご協力に感謝申し上げます」と挨拶した。

佐藤副会長から、任意の懇親会について提案があり、高橋達也広報委員長より「青年部会の思い出」について全員に原稿依頼があった。

来賓を代表して柏村一志常任理事より「私としては丁度十周年の頃に入会して沢山の思い出がある。今後も任意の懇親会などの形で活動が継続され、顔を合わせる機会もあると思う。景気も厳しいがお互いに知恵を出し合って頑張っていこう」と挨拶。小林達夫 O B 会長、菊地利夫、飯島昭の 3 氏の発声により乾杯した。

和やかな歓談のなか、戸塚会長へ記念品と花束の贈呈が行われた。各氏より青年部の思い出が語られた後、戸塚由雄初代会長より「34 年間の沢山の思い出話が聞けて嬉しく思う。私も病院から直行した発会の日を昨日のように思い出す。現在支部は青年部会からの人材により運営されており、嬉しく思うが、それで休会となるのであればそれは仕方のないことだと思う。本日みなさんが沢山の思い出を持って集まって頂いたことを嬉しく思う。これからも業界を背負って立って頂きたい」と述べて手締めを行い、佐藤副会長の閉会の挨拶で懇親会を終了した。

第1回「ものづくり日本大賞」に清川メッキ工業(株)(福井県)が特別賞受賞

経済産業省は、内閣総理大臣表彰「第1回ものづくり日本大賞」について、受賞候補者を公募、各ブロックによる一次審査及び二次ヒアリング審査、最終審査等を経て、平成17年8月2日に受賞者を発表した。

経済産業省関係(内閣総理大臣賞(6)・経済産業大臣賞(17)・特別賞(6)・優秀賞(59))において、清川メッキ工業(株)「小型・軽量・消費電力削減に貢献するナノめっき接合技術(清川肇氏外9名)」(福井県：清川忠社長)が特別賞を受賞した。

今回受賞した企業及び受賞者のほとんどが、上場企業または産学連携の企業体等で、同社は単独企業として、「産業・社会を支えるものづくり」分野の「製品・技術開発」部門にノミネートし、技術の革新性、技術レベル、経営貢献度、環境優位性などを基準に選考されて、今回受賞につながった。

「ものづくり日本大賞」表彰は、我が国の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくため、「ものづくり」の中核を担っている中堅人材や、伝統的・文化的な「技」を支えてきた熟練人材、今後を担う若年人材など各世代に渡る、特に優秀な個人又はグループに対して内閣総理大臣賞を授与するものとして新設された制度。

なお、経済産業大臣賞及び特別賞受賞者は、去る平成17年8月3日に東京プリンスホテル「プロビデンスホール」で表彰式が行われた(優秀賞は各経済産業局で実施)。その他の全鍍連組合員事業所では、優秀賞に連携グループ2個人が受賞した。

編集後記

街中や電車内で携帯電話をかけている人をよく見かけるが、7月末で契約台数が9300万台に達したという。赤ちゃんやお年寄りを除けば日本人のほとんどの人がもっている数である。携帯電話には関係先の電話番号やスケジュールなどを登録したり、あるいは何処か遠くへ行こうとする時、目的地まで一番便利な電車の乗り継ぎ経路まで調べたりすることも出来るなど色々と利用されている。まさにビジネスから生活にとって必需品となり、深く浸透している。反対に固定電話の普及は停滞しているという。最近固定電話で困ったことがある。自分の電話が非表示であると、相手が自動的に受取拒否になる電話が増えていることである。初めは何故繋がらないのか不思議であったが、携帯でかけなおすと繋がりが自分の固定電話が非表示であることに気が付く。最近のFAX兼用器は非表示を受取らないよ

う設定できるようになっており、そうした機器が増えているのかもしれない。ただ急いでいる時に受取り拒否にあうと慌ててしまう。世の中どんどん便利になっている反面、不便なことも起きている。

広報8月号

印刷 平成17年8月15日
発行 平成17年8月15日
(毎月1回20日発行 第38巻第8号)
発行所 東京都鍍金工業組合
〒113- 東京鍍金公害防止協同組合
0034 東京都文京区湯島1-11-10
Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166
発行責任者 大村 功作
編集責任者 神谷 博行
印刷 スザキ企画 Tel 047(338)1222
〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4
定価 500円